

6/1 – Lecture 4.

「バラの香りの不思議な世界」

講師：ジャック・ムシヨット

1978年から2013年までメイアン社に勤めた育種家

バラの香りの多様さはバラの色や花型と同じくらい広い。一重咲きの花が好きな人もいるし、クォーター咲きが好きな人はもっと多い。

ロサ・ダマスケナの香りは世界的にバラの香りとして認められている。それはバラが少なくない意味を持つ香料産業において、ロサ・ダマスケナの香りが強い影響力を持っているからである。バラの精油、溶剤抽出物、エタノール抽出物の製造方法はよく知られている。

現代バラは多くの育種家世代によるたくさんの交配によって、信じられないような香りをもつようになった。グラスにある香料会社の協力により、よりよい香り表現ができ、幸運にもいくつかの天然物の香りが、調香師に有名な商品となる新しい香りの発想を与えた。

ヘッドスペース法は生きているままの状態での揮発成分を捕獲するための手法であり、これにより化学分析をして調香師の表現する内容に合致する分子を同定する。これはバラの香りか？ 単純な問いだが、答えはきわめて複雑になる。どんな条件で香りはより発散されるのか？ 生理学上の知覚機構は実に空間的な形状認識であり、それらは脳の記憶中枢と関連している。

フランス人が育種した香りのよいいくつかのバラの例とともに、音楽や絵画で用いられるようなコードやトーンを説明する。

(参考事項)

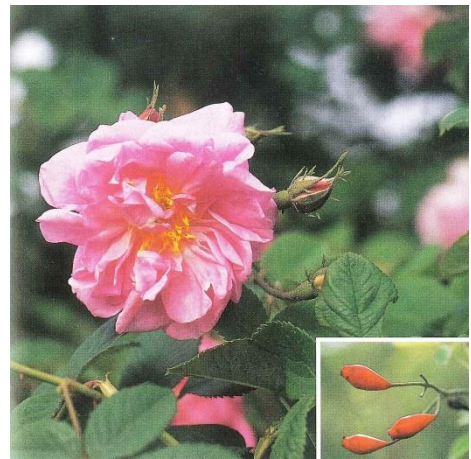
ロサ・ダマスケナ

「ダマスクローズ」とも呼ばれ、ロサ・ガリカとロサ・モスタカの交雑で作出された。

更なるDNA分析によって、もう一つの種類

「*Rosa fedtschenkoana*」もロサ・ダマスケナと関係することが分かっている。

花は優良な香りでも有名。香水の成分として使用される。



写真出所) 野村和子(著)
『オールド・ローズ花図譜』小学館